

☆7月のなかよしるーむ・ミニ・ミックスでは・・・☆

7月は、天候に合わせて、水遊びや粘土遊びを楽しみましたよ(*'▽') 保健師の先生の講話も聞きました



保育園の4歳児、5歳児の子どもたちが、歌やお遊戯の発表をしてくれました♪
原田先生と一緒に、心地よい音楽を聴きながら、みんなで体を動かして、リラックス！！
エクササイズをしました♪
最後に、紙芝居“ぜにくそうま”的読み聞かせを聞きました。

☆シニアサロンぽぽらでは・・・☆



「シニアサロンぽぽら」に遊びにきませんか？

子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に1回地域の方におこし頂き楽しいひと時を過ごしています。

今月は、バスハイクです。

日 時：8月29日（水）8時30分から14時

内 容：「サロンバス・薬博物館・花やしき」

集合場所：西九州大学 佐賀キャンパス

（8時25分までに、集合して下さい）

※電話でお申し込み下さい。

TEL 31-6877



♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。

お気軽にお申し込み下さい。

※毎月第3火曜日の14時～16時までは、西九大短大部教員による食育相談を行っています。
事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。（31-6877）

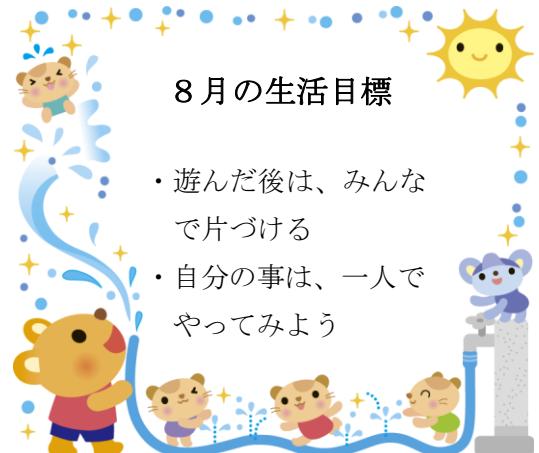


永原学園地域子育て支援センター
さんこう・ぽぽらだより
2018年8月発行 第136号
認定こども園 西九州大学附属三光保育園
TEL:0952-31-6877



8月の生活目標

- ・遊んだ後は、みんなで片づける
- ・自分の事は、一人でやってみよう



暑中お見舞い申し上げます

記録的な猛暑が続き、日本中で体調を壊す人たちが後を絶ちません。「夏はプール！」と、水の中で遊ぶことを楽しみにしている子ども達を前に、水の温度（高温になっていないか）や周囲のコンクリート等の温度を図ったり、ひさしを作ったりと準備も大変です。とはいって、子ども達の五感を育て、水遊びの楽しさを味わってもらうために、知恵を絞って色々な工夫をしてこの夏を乗り切りたいと思います。

8月は夏休みということもあり、親子・兄弟一緒に行動が多いですね。お母さんやお父さんは大変ですが、公共施設や乗り物の中でのルールやお約束など、事前にお話をしていくだけでも、子ども達も混乱せずに楽しい経験になると思います。

事故やけがに気をつけて、楽しい夏を体験して下さい。

「なかよしミックス」に遊びにきませんか！

就園前までの子供と保護者の方が一緒に参加して
親子で楽しく遊ぶ集いの場です。

★第5回目の8月は、

日 時：8月21日(火)10:00～12:00
8月23日(木)10:00～12:00

内 容：わらべうた遊びを楽しむ

持ってくるもの：コップ（子ども用）

場 所：さんこう・ぽぽら

※駐車場は三光保育園からお入り下さい。

事前のお申し込みが必要です。

※1日(水)9:30より受付（平日9:30～17:00まで）
いずれの日も先着16組の親子



「フリーティイ」にもどうぞ！

日 時：8月7日(火)・8月9日(木)
10:00～12:00（水遊びもできます）

お好きな時間にお出かけ下さい。

場 所：さんこう・ぽぽら

さんこう・ぽぽら開放の時間帯について

【開園日】
○月～金
(祝祭日・お盆・年末年始を除く)

【時間】
○9:00～12:30
・園行事の為、ご利用できない場合があります。
・出前支援の場合は、担当職員が不在になります。

○12:30～13:30
昼休みの為閉園

○13:30～16:00
この時間帯のご利用の場合は、電話での申し込みをお願いいたします。

三光保育園：31-6877

「音楽を介した触れ合い」

西九州大学 子ども学科 教授 櫻井琴音

出張先の空港内で、乗り継ぎ便を待っていた時のことです。楽しそうにはしゃぐ子どもの声が聞こえてきました。子どもが発している言葉は、英語じゃないなあ。ドイツ語でもフランス語でもない。「うーん、いったい何語だろう?」「どこの国から来た子どもかな?」等と思いながら声のする方に目を向けると、元気よく走り回っている3歳ぐらいの男の子の姿が目に留まりました。くるりとカールした長めの髪、カラフルな色の洋服が似合っていて可愛らしかったものですから、しばらく男の子の様子を眺めていました。そうこうするうちに、男の子は勢い余って私の膝元に倒れ込んできました。

「・・・」男の子が私に話しかけました。おそらく「ごめんなさい」といったのだと思います。その子のお母さんが急いでやって来て、私に対して丁寧にあやまられ、その場で男の子に諭していました。きっと日頃から、しっかりと躾をしているお母さんなのでしょう。お母さんが言われるには、待ち時間が長いために子どもが退屈してしまい、つい騒いでしまったとのこと。このことがきっかけで、私たちは隣同士に座って、一緒に乗り継ぎ便を待つことになりました。

お母さんとの話の流れから、日本の子どもの歌を何か紹介してほしいと言われ、「こぶたぬきつねこ」の歌を紹介しました。この歌は幼稚園や保育所でよく歌われていますし、小学校1年生の音楽科の教科書にも掲載されています。歌詞は、「こぶた」「たぬき」「きつね」「ねこ」のしりとりになっていて、先に歌う人が「こぶた」と歌うと、後に歌う人はそれを真似て(こぶた)と歌い継いでいきます。歌詞に出てくる動物の仕草を入れながら歌うと、男の子は目を輝かせながら私を真似し始めました。何度か繰り返すうちに、歌詞の発音も動きも上手くなっていました。その様子を見ていたお母さんは、旅の思い出になるからと、私たちの様子を動画で撮り始めました。帰国したら、家族に披露したいとのこと。

旅先で偶然出会った男の子との束の間の触れ合いでしたが、心の中がほっこりするひと時でした。数分前までは見ず知らずの間柄だったのに、歌っているうちに3人とも笑顔になっていることにビックリ。たとえ言葉は通じなくても、音楽はいとも簡単に国境を超えることができるということを改めて実感しました。子どもたちは、音楽に対してとても敏感です。この親子のことを思い出すたびに、音楽を身近に置いて親子での触れ合いに活用してほしいと願っています。親子が共に過ごすことができる時間は、子どもの成長によって変化していきます。今だからこそできる親子の触れ合いを、存分に楽しんでください。

「土用の丑の日」

西九州大学健康栄養学部准教授 福山 隆志

「暑いですね毎日毎日」「本当ですね、最近は異常気象ですね」「東京では、ついに40度!私たちの常識を超えたね」「ところで、暑さと言えば鰻ですね」「土用の鰻がおいしいですね」

7月も下旬、小学校や中学校は夏休みだ。暑さもピークだ。この頃になると、商店の軒先には「土用鰻」の暖簾がかかる。スーパーのショウウケースにも、こんがりと焼かれた鰻がパック詰めされ並んでいる。全国至る所で、鰻が大人気だ。

確かに、鰻はおいしい。天然もの、養殖ものを問わず季節の風物詩として、私たちに夏の到来を知らせてくれる。暑さに負けそうな体に、元気を届けてくれる。ありがたい。私は田舎に育ち、中学生頃までは、近くの川で漁を楽しんでいた。きゅうりの香りがする鮎や体が虹色に輝く小魚、ハゼ、川蟹等を捕まえていた。もちろん鰻も捕まえていた。夏の夕方、竹で編んだ「鰻てぼ」を川辺に仕掛ける。翌朝早く誰もいない頃、仕掛けの中で暴れている鰻を捕まえるのが楽しみだった。ある時、今も記憶に残る大鰻が獲れた。片手では握れない程だった。暴れる鰻を何とか押さえつけて、頭にキリを刺し開いたら、何と文庫本を開いた位の大きさだ。脂がたっぷりとのった、甘い香りが何とも言えない味だった。

こんな楽しい記憶の鰻だが、最近は厳しい状況だ。報道によると、養殖するための鰻の稚魚が極めて不作で、値上がりしている。石炭ではないが、黒いダイヤモンドと呼ばれているそうだ。鰻の稚魚を採取する人は、届け出を求められており制度上は、鰻の資源管理がされている。ただ、流通量と現実の届出には大きな開きがあり、その実態は暗闇の中だ。

また、私たちが日ごろいただいている鰻、ニホンウナギは絶滅危惧種に指定されているそうだ。果たして、絶滅危惧種に指定されたものを食べてよいものか。考えるところだ。

魚の資源をめぐっては、マグロもその資源量が減少しており、水産庁もコントロールを開始している。世界の中で日本の割当量の上限を超えない取り組みを各県ごとに進めているが、いち早く上限を超えた漁をしたところもあると聞く。法的規制に基づいた対応ではないことから、その実効性は未知数だ。

そのような中、参考になるのがハタハタ漁の自主規制だ。ハタハタもかつては資源量が激減し、漁そのものが成り立たなくなる時代があった。その時には、東北各県の漁業者が自動的に操業を停止し、資源量の回復を待った。数年後のハタハタ漁再開の折には、一定程度の資源が回復し、現在では消費に対応できているそうだ。

ただ、鰻もこのような操業停止で資源が回復するのか未知数だ。鰻の生態研究が進んでない現状での取り組みはなかなか厳しい。鰻生産者、鰻を提供する店舗など、生産流通関係者の理解も必要だろうし、強い規制は問題を潜在化し、解決を遠ざける可能性がある。しかし、手をこまねいているわけにはいかない。それこそ、鰻の稚魚が獲れなくなったら、鰻のかば焼きも鰻重も、全てが成り立たない。そうなる前に私たちは動きたい。

幸い佐賀には、牛がいる。5Aランクの佐賀牛だ。夏の暑さに負けない食べ物なら、牛でも良いではないか。同じ「う」のつく食べ物だ。鰻と牛は比較の対象にならないか!確かにそうだ。それでも、やはり鰻文化を失いたくない。子や孫に鰻のおいしさを届けたい。

どうだろう、しばらくの間は土用の丑の日は封印して、土用の牛の日に衣替えしては?ナンセンスと言われそうだが、全てを失ってからでは遅い。今なら間に合うだろう。来年の土用の日は、ぜひ「牛」を食べて夏を乗り切ろう。